



関閣中「韓熙載夜宴図」(部分)

顔は今日の基準でも美しい。歴史に名の残る美女ではないが、韓熙載が彼女らに感服したこと、南唐が滅びた一因だ。面白くことに、そのような美人像の背後には、文化の大変動があった。盛唐のとき、豊満こそ美人の条件であった。しかし、十世紀頃になると、

各地の図書館などに寄贈した。制作年代がはっきり分かるのは、古代から中世へ精神のかわりが変わったことの表れ」とする。

寂蓮らが名を連ねる。

書家の石川九樹氏は「文字の変化は、古代から中世へ精神のかわりが変わったことの表れ」とする。

文 化

「え、これ映るの」。福岡市で私が経営するリサイクル店を初めて訪れた人は、例えば陳列された白黒テレビのスイッチを入れると、たいがい驚く。テレビだけではない。過去の遺物同然の真空管ラジオも、骨董品のようなステレオもすべて見られるし、聴ける。

多くは昭和三十年代に真空管を使って製造された製品だ。廃品や故障品を仕入れ、自分自身で修理して店に並べる。



白黒テレビを修理する筆者

多くの年配の方と同じように、私もラジオ少年だった。岩手で過ごした小学生のころ、鉱石ラジオに夢中になった。真空管やコンデンサーなど欲しい部品を少ない小遣いで購入したり、廃品回収の業者さんから分けてもらったりした。回路を複雑にするたびに感度が格段に良くなるのが楽しく

度により中途退職することとを決心、一念発起しリサイクル店を開いた。最初は普通の販売店だった。ところが、昭和三十年代に製造された家電がたまに持ち込まれる。こうした古い家電を修理するようになっている。私が修理しなければ捨てられ、しまう運命かもしれないからだ。

修理の効率は悪い。白

修理するときはまず音を聴き、画面を見て、駄目そうな回路を順番に測定器で試していく。ここが悪いのでは、あそこが怪しいかなという感じ。文字通り手探りの地道な作業だ。

作業中よく感電する。修理に不可欠なのが千五百本以上ストックした各種の真空管だ。コンデンサーや抵抗は販売されているのでそれを使えばいいが、真空管は現在、製造されていない。

なつた。そのたびに、ああ、こいつまだ生きてるなど妙にうれしくなった。昔の家電、そして真空管には人間と対話できるような温かみというか、味わいがあった。

お客さんは九州だけでなく、関東や東北からも来てくれる。修理を依頼する人は「部品が無いからと修理を断られた」「新品を買った方が安いと言われた」等々、メーカーや他の販売店を回ってうちにとどり着いた人が多

放ってはおけない。本業は中古家電や昭和レトロ雑貨などの骨董品の販売だが、評判を聞きつけ全国から様々な家電が送られてくる。

放ってはおけない。本業は中古家電や昭和レトロ雑貨などの骨董品の販売だが、評判を聞きつけ全国から様々な家電が送られてくる。

放ってはおけない。本業は中古家電や昭和レトロ雑貨などの骨董品の販売だが、評判を聞きつけ全国から様々な家電が送られてくる。

レトロ家電にしびれ修理

◇昭和30年代の白黒テレビなどをリサイクル◇

大場 敬志

抄 遊 交

住友商事で、公私とも交流を深めた。取締役三年目の中、奥田流の即断即決の一九九一年を意欲し、直事も速くな

動き盛り

していたSドルボ「エリアをの「うかれ」精神を發揮して 百万円を借りて立て替えた。まで浜辺をさまよった。可力月か前の寒い晩、大阪

二代 邦 弘 社長を集め、月例の「異業種